

石油とガス資源はサハリン州の宝

望月 喜市

(北大名誉教授)

大揺れの州都入り

8月10日、ハバロフスクから1時間ちよつとの飛行で州都ユジノサハリンスクにつく。いつものように、E教授の出迎えをうけ、サハリン総合大学の学生寮に向かった。教授は大分疲れた様子。というのもこの時期、ネベリスクの地震や、マラホフ州知事の辞任など、立て続けに大きなニュースが起き、州議会議員でもあるE氏は寝る間を返上して活躍していたのだ。夏季休暇中の大学は、本館校舎の改修中で、人影もまばらで閑散としていた。資金の回復がいいのか、いたるところで住宅の改修工事や建設工事が目に付いた。寮の受け入れは問題なく、すぐに鍵を受け取り部屋に入った。2階の右サイドの滞在者は僕一人のようだ。荷物を解く間もなく街にでて、インタビュー調査を開始した。



ノソフロシア外務省サハリン全権と
(左：筆者)



高級ホテルの建築ラッシュ



道路整備はこれから

主役の交代時期・中小企業の出番

サハリン1、サハリン2の開発・建設・パイプ敷設などの大規模工事は殆ど完了したので、日本の大手企業は連絡係りを残して日本に次々と引き上げ、事業関係の滞在日本人の数は大幅に減少している。その点では、最近急速に日系企業が増加したサントペテルブルグや、モスクワとは対照的である。サハリンでは後続の開発プロジェクトであるサハリン3以降の開発作業が始動するまでしばらく大手企業は休止状態になる。それに代わって、今度は最終需要に直結する中小企業の得意な小売や住宅建設の需要が拡大する番だ。どんな消費財のニーズが潜在しているのだろうか。生活の中にそのヒントはある。おそらく誰でも感ずることだが、電気部品の品質が悪い。延長コードのソケットや二股ソケット

の差し込みが受け口にヒットせずすぐ落ちたりする。戸棚の扉がきちつと閉まらない。椅子の背もたれが簡単に外れてしまう。貯水式トイレの流し水がきちんと止まらず、絶えず水がちよろちよろ流れているなどの不便さを大抵の家庭では経験しているはずだ。不便をかこつものの一つに鍵の不具合である。先方では集合住宅が多いが、自分の部屋(クバルチーラ)にたどり着くまでに平均3回は鍵の世話になる。鍵穴に差し込んで錠を開こうとしても最初はなかなか開くことが出来ない。両手に買い物袋を提げた状態での鍵穴操作にはかなりの熟練が必要だ。しかし高級ホテル住まいの旅行者や、最近の高層アパートの住民にはこのような事はない。スマートな電子錠やカード錠が一般的で、洗面・トイレ・台所・居間・寝室も快適である。普



日本食品の小売店

通の家庭では、こうはいかない。住民は不便さに慣れているが、国民経済的には大きな損失である。リモコンで電灯を消す方式なども電力のムダを省くのに貢献する。

ロシアの場合サービス産業を軽視したソ連時代の後遺症の一つとして、生活に奉仕する企業数は極端に少ない。住民1人当たりの中小企業数は日本の場合、ロシアの20倍程度はあるといわれている。最近でこそ、外食産業や喫茶店、スーパーマーケットの数は増加してきているが、食品加工や魚加工工場などの中小企業数はまだまだ少ないといえる。

もう一つの需要予測法は、中央の消費パターンが次第に地方に波及することに注目する方法だ。モスクワでは日本食の人氣が高い。すしバーやカツどん、うどん定食など店が繁盛している。サハリンでも高級向けと大衆向けに焦点を絞った日本食堂の潜在需要が沢山あるように思う。さらに、積極的に需要を開拓する気概が必要だ。自動洗浄トイレなどは経験した人でないとその良さは分からない。

購買力はあるのか

潜在消費需要を見つけたとして、購買力はあるのだろうか。スーパーマーケットのレジを観察すると、その旺盛な買いっぷりに驚嘆させられる。日本食材専門の小売店の値段は実に高い。インスタント味噌汁やふりかけは日本の7倍程度、道産米は3・5倍もする。それでもよく売れるという。

行政府の統計課や統計出版局、郷土図書館で関係資料を収集した。図書館は一般旅行者でも簡単な手続きで利用できる。資料コピーも日本並みの値段で依頼可能だ。しかし、コイン式でないのが係官にそのつど依頼しなければならぬ。

サハリン州の賃金や貨幣所得は、ハバロフスクや沿海地方と比較して高い。モスクワ並みですらある。しかし、物価や電力料金も高いので、実質賃金や実質所得がどの程度なのか踏み込んだ分析が必要だ。賃金平均はモスクワの1・06倍、年金も1・26倍、ただし貨幣所得はモスクワの半分(05年の公式統計)である。06年サハリンの賃金とインフレ率は表1、表2に示した通りだ。サハリンのインフレ率は特別高く、サービス料金は1年で14%、食品は9・7%だ。これは、住民を苦しめている。最低賃金以下の層が人口に占める比率は、サハリンは19・3%あり、モスクワ13・2%より深刻だ(05年公式統計)。

石油・ガスは豊かな所得を約束

サハリン1は、鉄格子のフェンスに囲まれた広い敷地に豪華な近代建築の社屋を持つている。訪問した時は丁度NHKのTV取材が行われていた。ここでは、広報担当の美しい事務員がコンピュータから次々と興味深い資料を打ち出し親切に対応してくれた。

サハリンの石油生産は最近急速に増えている。07年予測では、対前年

	消費者物価 (%)	
	サービス料金	食料品
沿海地方	7.11	6.8
ハバロフスク地方	8.56	7.42
サハリン州	10.35	9.73

表1 サハリンの消費者物価上昇率(%)は他地区より高い(05年12月~06年12月)

表2 業種別賃金トップファイブ(サハリン)(06年11月、ルーブル)

	全職種	資源採掘	建設	金融	不動産
沿海地方	11444.3	13282.4	10906.2	19717.1	10375.1
ハバロフスク地方	13317.2	25219.1	17817.4	21250.4	12687.8
サハリン州	19848.1	40615.5	23442.6	30365.9	20848.3
		1位	3位	2位	4位

比で2倍の生産量になる(1700万ト弱 表3)。

今後予測される石油・ガス事業からもたらされるロシア側の収入額は、サハリン1では522億ドル(2054年まで、35ドル/バレルで計算)、サハリン2では501億ドル(2054年まで)。両者合計で1023億ドル、年平均22・7億ドルになる。(06年の州統合予算歳入は12億ドルであった)このほか、サハリン

表3 急成長するサハリンの石油生産

年	石油採掘高 (千トン)			
	総量	対前年指数	大陸棚	陸上
2004	3546.1	1.00	1581.5	1964.6
2005	3938.7	1.111	1947.5	1991.2
2006	6128.4	1.556	4179	1949.4
2007	16644.0	2.716	14500	2144.0



「サハリン1」を訪問した筆者（左）

3以降の収入や、さらに今後続くであろう原油・ガスの高騰を考慮すると、ロシア側が受け取る収益は莫大なものだ。もちろん、このうちどれだ

けが、サハリン州の所得として地元経済・生活に豊かにするかは、一概には言えないが、サハリン州の人口からみると、1人当たり収入ではロシアの

富裕州になる可能性がある(注1)。

注1・PS契約による利益配分はつぎようになる。石油・ガスの売上から、優先的にロシア側に「ロイヤリティ」を支払う。その残りから「資本コスト」(CAPEX)と「オペレーションコスト」(OPEX)を投資事業家が回収する(一定期間後コスト回収が終了すれば、ロシア側への配分利潤は飛躍的に大きくなる)。コストを差し引いた利益は決められた比率でロシア側と西側とで配分する。西側が得た利益には所得税がかかる。それ以外に「ボイナス」を支払う(S2の場合は、FS開始時(92年)、PS契約発行時、1つの鉱区の開発開始時などに各1500万ドルずつ支払っている)。このほか、サハリン州向けにS1、S2ともそれぞれが開発開始時点で達したときから「サハリン発展基金」として5年間5回にわたり2000万ドルずつ、計1億ドルを支払うことになっており、S2は07年が支払いの最後の年になる。「基金」の用途は交通インフラ整備、社会政策、クリーン発展計画のうちサハリン州負担分などに向けられる。その他のメリットとしては、ローカルコンテンツ法によるサハリン企業の受注、開発企業自身が負担する道路整備、雇用の拡大、石油・ガス採掘技術習得とスペシャリスト養成、関連企業誘致などの効果をもつ。今後、S1、S6等の開発が始まれば、(SPA)による開発でなく一般開発になるので、ロシア政府にとり一層有利な収入源となると思われる。

州の財政規模は高い成長を示している。2006年の場合、299億ルーブル(約12億ドル)で対前年比44

・9%の増加率であった。そのうち自主財源歳入は176億ルーブルで対前年比2倍強となった。歳出は295億ルーブルで、黒字は3934億ルーブル(昨年は赤字財政だった)を記録した。サハリン州政府が(中央とシェアすることなく)100%受け取る天然ガスロイヤリティと5%を受け取る石油ロイヤリティ利子歳入は、06年で1.3億ルーブル得(約250万ドル)であった。

貿易構造は石油・石炭の輸出と機械類の輸入といった取引比率が大きい。国別貿易相手国では、日本が1位である。

石油・ガスの積み出し港として整備されている南端のコルサコフ港は、アジア太平洋諸国に近い(日本まで1.3日、韓国まで2.3日、中国まで3日、台湾4日、アメリカ西海岸まで11日)。これに加えて、ナホトカ港近郊から2010年以降予定されている東シベリア太平洋石油パイプネットからは、3000万トン、5000万トンの積み出しが展望されている。日本のすぐ近くに石油の一大積出港が出現するのも速くない。そして、日ロ貿易は大きく拡大する趨勢をはっきり現し始めた。

屋外広告業許可第571号

大型サイン・ネオン・内外各種サイン・企画・設計・施工

サイン&ディスプレイ

UNITY AD

有限会社 ユニティ・アド

〒065-0010 札幌市東区北10条東6丁目15-9 1番館1404

TEL・FAX 011-733-6855

Email: unity-ad@ex.me-h.ne.jp